PART4 社会保障の問題点

Chapter1　現状の社会保障の問題点

目標
社会保険のうち，危機が叫ばれ世代間の断絶を生んでいる保険について知ろう。
「ノーマライゼーション」という言葉の意味を理解しよう。

1　現状の問題点

①財政負担問題

消費税増税などにより〔　　　　　　　　　　〕**率**が上昇。「低負担・中福祉」から「中負担・中福祉」へ？

②社会保険格差

保険料・給付額・支給開始年齢の格差が，地域や種類により大きい。

③公的年金制度の危機

従来の**積み立て方式**から，**賦課方式**を基本に一部積み立て方式を取り入れる修正積み立て方式〔修正賦課方式〕に移行してきたが，現在は事実上賦課方式のようなもの。また厚生年金未加入，**国民年金未払い**，行政上のミス多発など数々の問題がある。

※ 2001年からは民間の確定拠出年金なども導入されている。

※従来の「胴上げ型」→現在の「騎馬戦型」→将来は「肩車型」へ？

④医療・介護制度の充実の必要性

少子高齢化が進む中で，施設の整備や医師・看護師・介護福祉士の拡充など，サービスを早急に充実させる必要がある。

胴上げ

騎馬戦

肩車

2 問題の解決に向けて

①コンパクトシティ

生活に必要な機能を中心市街地に集めることで，医療・介護などの効率化をはかる都市計画・街づくり。

②〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

高齢者や障がい者を含むすべての人が，社会で同じように生活していこうという「共生社会」の実現を目指す考え。

※障壁のない社会を築こうとする〔　　　　　　　　　　〕や，設計段階から誰もが使いやすいように配慮された**ユニバーサルデザイン**〔UD〕の観点に基づいた環境整備が進められている。

※しかし，障害者雇用促進法で一定規模以上の事業主や国・地方自治体に対し定められている**法定雇用率**は，中小企業を中心に半数以上の企業で達成されておらず，納付金が課されている。

③その他

国民に対し一律に最低所得を保障する〔　　　　　　　　　　　　　　　〕や，就労可能な福祉受給者に対し就労を義務づけるワークフェアなどの議論もある。

ユニバーサルデザインのはさみ

まとめ

事実上の賦課方式を採用している年金保険は，高齢者が得をして若者が損をするという不公平感により世代間断絶を生んでいる。
高齢者や障害者を含むすべての人が，社会で同じように生活していけるような「共生社会」の実現を目指す考えを「ノーマライゼーション」という。

Chapter2　将来の社会保障の問題点

目標
少子化の進行によって具体的にどんな問題が起こるか考えよう。
高齢化の進行によって具体的にどんな問題が起こるか考えよう。

1　少子化

少子高齢社会の中の**少子化**

2.07 を下回ると人口維持ができないとされる〔　　　　　　　　　　　　〕は，

2005年に 1.26 まで落ち込み，2021年現在は 1.30。

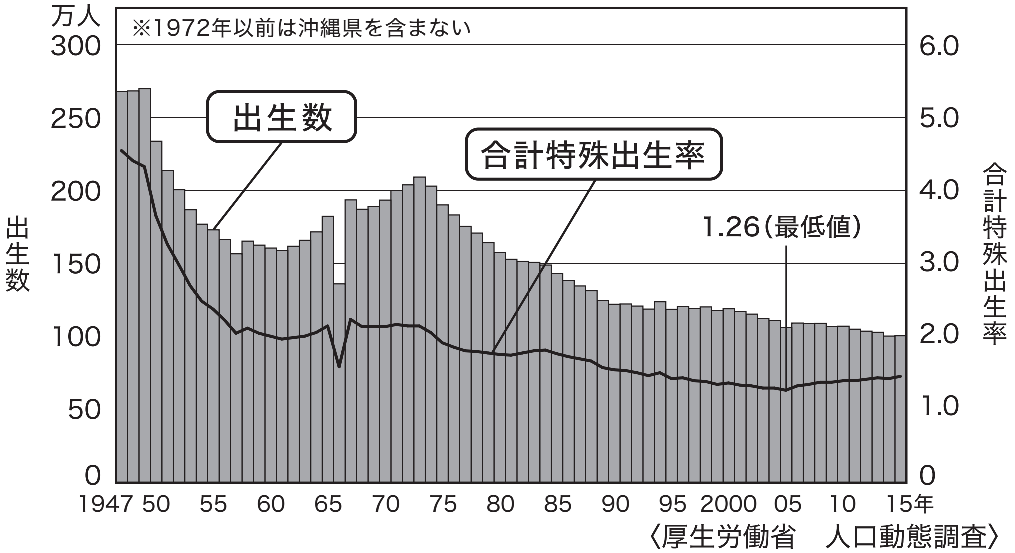
※日本の総人口は 2010年以来減少し続けている（＝**人口減少社会**）。

①**年少人口（15 歳未満）**・〔　　　　　　　〕**人口（15～64 歳）**の減少

将来の労働力不足や経済成長の停滞が懸念される。

②保育所不足による「保活」「**待機児童**」問題

晩婚化・非婚化・少子化対策が急務。



合計特殊出生率の推移

2 高齢化

少子高齢社会の中の**高齢化**

2021年現在，日本は高齢化率（＝総人口に占める 65 歳以上人口の割合）約 29%。

〔　　　　　　　　　　　　　　〕の増加などの問題が深刻となる。

①高齢化率の呼称

７%超が**高齢化社会**（1970年～），14%超が**高齢社会**（1994年～），21%超が

〔　　　　　　〕**社会**（2007年～）。

※ 2065年には総人口は９千万人を割り，高齢化率は 38%を超えると予測されている。

②出生数が多い世代の呼称

A　**団塊の世代〔第一次ベビーブーマー〕**（1947～49年生まれ）

B　団塊ジュニア〔第二次ベビーブーマー〕（1971～74年生まれ）

高橋尚子

まとめ　少子化の進行により，将来の労働力不足や経済成長の停滞が懸念される。
高齢化の進行により，社会保障関係費の増加とそれに伴う世代間の断絶が懸念される。

第12講　PART4　確認問題

1　日本の公的年金制度について，従来と現在（事実上）の方式の組み合わせとして正しいのはどれか。

① 従来－積み立て方式　　現在－賦課方式
② 従来－積み立て方式　　現在－修正積み立て方式
③ 従来－賦課方式　　現在－積み立て方式
④ 従来－賦課方式　　現在－修正積み立て方式

2　従来・現在・将来予測における，高齢人口と生産年齢人口の比率を示す型を順に並べた場合，その組み合わせとして正しいのはどれか。

① 肩車型→胴上げ型→騎馬戦型　　② 肩車型→騎馬戦型→胴上げ型
③ 胴上げ型→肩車型→騎馬戦型　　④ 胴上げ型→騎馬戦型→肩車型

3　生活に必要な機能を中心市街地に集めた集約的都市を何というか。

① テクノポリス　　② インナーシティ
③ メトロポリス　　④ コンパクトシティ

4　高齢者や障がい者を含むすべての人が，社会で同じように生活していこうとする考え方を何というか。

① バリアフリー　　② ナショナル＝ミニマム
③ ノーマライゼーション　　④ ユニバーサルデザイン

5　国が国民に対し一律に最低所得を保障する制度を何というか。

① ベーシック＝インカム　　② セーフティネット
③ ナショナル＝ミニマム　　④ ワークフェア

6 2021年現在の合計特殊出生率はどれか。

① 1.26　② 1.30
③ 1.42　④ 2.07

7 年少人口，生産年齢人口，高齢人口の近年の傾向として正しいものはどれか。

① 年少人口は減少　生産年齢人口は減少　高齢人口は増加
② 年少人口は減少　生産年齢人口は増加　高齢人口は減少
③ 年少人口は増加　生産年齢人口は減少　高齢人口は減少
④ 年少人口は増加　生産年齢人口は増加　高齢人口は増加

8 高齢化の進展に伴い，一般会計予算に占める割合が増加するとされているのはどれか。

① 防衛関係費　② 社会保障関係費
③ 文教及び科学振興費　④ 公共事業関係費

9 高齢化率とその呼称の組み合わせとして正しいのはどれか。

① ７％超－高齢化社会　14％超－高齢社会
② ７％超－高齢化社会　21％超－高齢社会
③ ７％超－高齢社会　14％超－高齢化社会
④ ７％超－高齢社会　21％超－超高齢社会

10 2021年と 2065年（予測）の高齢化率の組み合わせとして正しいのはどれか。

① 2021年－約 19%　2065年－ 28%超
② 2021年－約 19%　2065年－ 38%超
③ 2021年－約 29%　2065年－ 38%超
④ 2021年－約 29%　2065年－ 48%超

第12講　PART4　確認問題　解答

1 解答：①　従来の積み立て方式から修正積み立て方式〔修正賦課方式〕に移行してきたが，現在は事実上賦課方式。

②：現在は事実上賦課方式。
③：従来は積み立て方式で，現在は事実上賦課方式。
④：従来は積み立て方式。

2 解答：④　多くの現役世代が 1 人の高齢者を支えてきた従来の「胴上げ型」から，現在の 3 人で 1 人を支える「騎馬戦型」に移行し，近い将来，1 人が 1 人を支える「肩車型」に移行すると予測されている。

①：胴上げ型→騎馬戦型→肩車型の順。
②：胴上げ型→騎馬戦型→肩車型の順。
③：胴上げ型→騎馬戦型→肩車型の順。

3 解答：④　コンパクトシティ化により医療・介護などの効率化をはかることが目指されている。

①：高度技術集積都市のこと。
②：大都市中心市街地に隣接する，土地利用が不安定で固定していない都市のこと。
③：巨大都市のこと。

4 解答：③　ノーマライゼーションは「共生社会」の実現を目指す考え方である。

①：障がい者や高齢者にとって障壁（バリア）となるものを取り除くこと。
②：国民としての最低限度の生活水準のこと。
④：設計段階から誰もが使いやすいように配慮されたデザインのこと。

5 解答：①　ベーシック＝インカムは「基本所得保障」「最低生活保障」などと訳される。

②：経済的不安に備えた安全網のこと。
③：国民としての最低限度の生活水準のこと。
④：就労可能な福祉受給者に対し就労を義務づけること。

6 解答：②　2005 年に 1.26 まで落ち込んで一時回復後，近年再び低下傾向にある。

①：2005 年の合計特殊出生率。
③：2018 年の合計特殊出生率。
④：この値を下回ると人口維持ができないとされる合計特殊出生率。

7 解答：①　年少人口は 15 歳未満，生産年齢人口は 15 ～ 64 歳，高齢人口は 65 歳以上の者のこと。

②：「生産年齢人口は減少，高齢人口は増加」が正しい。
③：「年少人口は減少，高齢人口は増加」が正しい。
④：「年少人口は減少，生産年齢人口は減少」が正しい。

8 解答：②　社会保障関係費は生活保護費・社会福祉費・社会保険費などからなる。

①：高齢化の進展とは直接関係がない。
③：高齢化の進展とは直接関係がない。
④：高齢化の進展とは直接関係がない。

9 解答：①　７％超を高齢化社会（1970年～），14％超を高齢社会（1994年～），21％超を超高齢社会（2007年～）という。

②：21％超は超高齢社会。
③：７％超は高齢化社会，14％超は高齢社会。
④：７％超は高齢化社会。

10 解答：③　2065年には総人口は９千万人を割り，高齢化率は38％を超えると予測されている。

①：2021年現在約29％で，2065年には38％を超えると予測されている。
②：2021年現在約29％。
④：2065年には38％を超えると予測されている。